

応援団について

体育祭は先日行なわれたがその中で応援団はひとまわり立ち大ききな働きをした。九月の初めに赤白の応援団を作り、体育祭に備えるわけだ、そのことが毎年の恒例となつてゐる。今度その応援団について新聞部でアンケートを行なつたが、それを見ると、次のような結果が出た。

まず、一番目の応援団はあつたほうがよいからかといふ問いには、圧倒的に「イエス」が多々、（表参照）「ノー」が少つた。表参照「イエス」の理由としては「盛」が上である。「見ておもしろい」「楽しい」「ひきまきめ」など。「ノー」の理由としては「競技の關係がない」「なや」「折々の練習」など。

「今年の文化祭は成功すると思ひますか。また、その理由も言つて下さい。」

「もちろん成功すると思ひます。準備は順調に進んでいますから。しかし、この皆さんに協力と団結を促すためには困ります。」

「学園祭をする意義について簡単に教えてください。」

「おんがらの我々の卒業。スポーツ、クラブ等の成果を見ていたのではいけません。また学園祭までの練習の上でクラブ・クラスの団結をはかり、その上学校全体のまとまりを作つていくといふこと、大きな意義があるのではないと思ひます。」

次に文化委員長に聞いてみた。

「準備が遅いといふ声がありました。いつ頃から始めたのですか。」

「六月から。」

「また、その批判についてどう考えますか。」

「そのとおりです。」

「半強制的にやらされてゐる」の練習は負担になるが、しかしな「学年全体で参加してない」「クラスで人数を決めるのはおかしい」などである。その改善案としては、順に「やる気のある人だけを選ぶ」「三年生も各クラス二名出す」「クラスから何名でも出してよい」などであった。他の変わつて、応援団は、運営の面から言つても生徒の心の中にしめる割合から言つても欠くことのできない存在になつてしまつた。しかし「どちらとも言えない」「理の由もない」「応援団の練習は負担になる」は、多分応援団を経験した人の意見だろうが、これらの応援団の運営の仕方考え直してみる必要があるだろう。

次に、募集の方法（一・二年は各クラス男女各二名、三年は自由）について今更さうと思つた。この質問には、「今のままでよい」といふのが圧倒的に多かつた。しかし、このパーセンテージが学年が進むに従つて低くなつてゐることは、興味深かつた。「改善した方がよい」といふのは、のべ年応援団員を集めるのに苦労して

「委員会は多すぎる」といふ声があるが、生徒の中から出ていすが、どう思ひますか。」

「委員会では、行事の企画から運営までを受け持ち、それに関する決定を行ない、クラスのメンバーの役目を果たさなければならぬので、多くなるのは仕方ありません。」

「伝達の方法が悪いといふ声もありますが……。」

「最も望ましいのは、委員を通じての伝達ですが、委員会に來ないクラスがある場合や、急ぎの場合、プリントや放送などによることになるのです。」

「今年の文化祭を、このようにしたいと思ひますか。」

「みんなが若い情熱をぶつけられるようなものがよい。」

「以上のような答えが揃つた。」

⑦ 応援団

年	人数
一年	10
二年	20
三・四年	30

いる現状を考へてみると少し矛盾するようだ。アンケートを整理してみても、アンケートの回収率は低く、その上無回答が多く、けつして全員の意見が反映してゐるとはいえないかもしれないが、一応生徒全体の意見としてどうもよいと思ふ。

「一応の参考として、今年の赤白の応援団長に、応援団の体育祭における役割、つまり位置づけを聞いてみた。赤白どちらの団長も答えは同じで「体育大会を盛り上げる」「応援団を中心として生徒全員が応援をするようにする」といふことだ。我々が応援団に期待してゐる「盛り上げてほしい」「楽しくしてほしい」「などでは」の答えは似ていて、応援団員は、我々の期待はわかつてゐるようだ。

最後に、応援団はいい面も多々あるが、もう一度考へてみる必要がある。いかにいかに、体育大会で普通の生徒とかけ離れて行き過ぎの点はないかなどについて考へ、よりよい応援団にして行きたいものだ。